



内閣府国民生活局

## 目次

はじめに .....	1
1 . 暮らしの課題とNPOの取り組み .....	2
(1)暮らしの営み .....	3
ア . 助け合って子育てをしていきたい .....	3
イ . 住み慣れたところで暮らし続けていきたい .....	5
ウ . 定年後も生きがいをもって暮らしていきたい .....	7
(2)暮らしを取り巻く環境 .....	9
ア . 安全で住みやすいまちにしたい .....	9
イ . 環境にやさしいまちにしたい .....	11
ウ . 賑わいのあるまちを取り戻したい .....	13
2 . 地域で活躍するNPOの秘訣 .....	15

## はじめに

---

少子化、高齢化、男女共同参画の進展といった経済社会構造の変化は、私達の暮らしに、自分自身や家族だけでは解決することが難しい様々な課題をもたらしています。そのいくつかは、身近な生活の場である地域において、近隣の人々からの支援や協力を得て、解決していくことが期待されるものです。

こうしたなか、市民が自発的に集まり、暮らしの課題の解決に向けて、主体的に取り組んでいこうとする動きが活発化しています。NPO（Non-Profit Organization：民間非営利団体。特定非営利活動法人（NPO法人）ボランティア団体、市民活動団体）は、市民によるこうした社会貢献活動の場であり、地域における新しいアクター 活動主体としてその存在が注目されています。

この冊子は、地域で先駆的な活動を展開しているNPOを紹介し、同様の課題を抱えている地域の皆様の今後の取り組みの一助として頂こうとするものです。

平成16年7月

内閣府国民生活局

この冊子は、株式会社日本総合研究所への委託により作成されました。また、委託先において、NPO論に造詣の深い有識者による「NPO法人の先駆的活動に関する研究会」(委員長：妻鹿ふみ子 吉備国際大学社会福祉学部福祉ボランティア学科助教授、委員：粉川一郎 武蔵大学社会学部メディア社会学科専任講師、他2名)を設置し、検討いただきました。

## 1. 暮らしの課題とNPOの取り組み

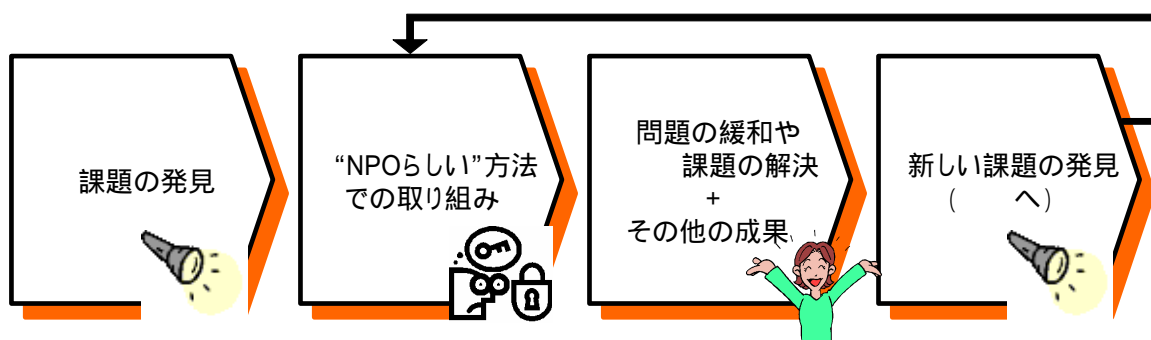
暮らしの課題には、私達一人ひとりが、日々の暮らしを営んでいく上で、その解決に近隣の人々からの支援や協力を必要とするものがあります。また、暮らしを取り巻く環境を改善していく上でも、同様の支援や協力を必要とするものがあります。

ここでは、日々の暮らしの営みについては、「子育て」、「高齢者介護」、「定年退職後の生きがい」を、また、暮らしを取り巻く環境については、「安全 住みやすさ」、「自然環境」、「まちの賑わい」のあわせて6つの分野に着目し、それぞれに関連した課題とNPOの取り組みをとりあげています。

具体的には、まず、それぞれの分野において、近年の経済社会構造の変化のなかで、どのような課題が生じているのか、また、この課題を解決するためにNPOはどのような活動に取り組んでいるのか、について概観します。

次に、その課題に取り組んでいるNPOを一つとりあげ、その活動の概要を紹介します。そして、「私達一人ひとりが自分たちの地域をよりよいものとしていくために、この先駆的なNPOからどのようなヒントが得られるのか」という問題意識のもとで、このNPOがこれまでたどってきた歩みを振り返ることとします。ここでご紹介するNPOは、概ね、以下のようなステップを経て、それぞれの地域においてかけがえのない存在になっていったと考えられます。

【NPOが地域においてかけがえのない存在となっていくステップ】



(注)ご紹介する NPO は、種々の情報から、その活動が地域において浸透していると考えられるもので、聞き取り調査を実施して具体的な活動を把握したものです。それぞれの NPO が、その分野における全国の NPO を代表しているという趣旨ではありません。

## (1) 暮らしの営み

### ア．助け合って子育てをしていきたい

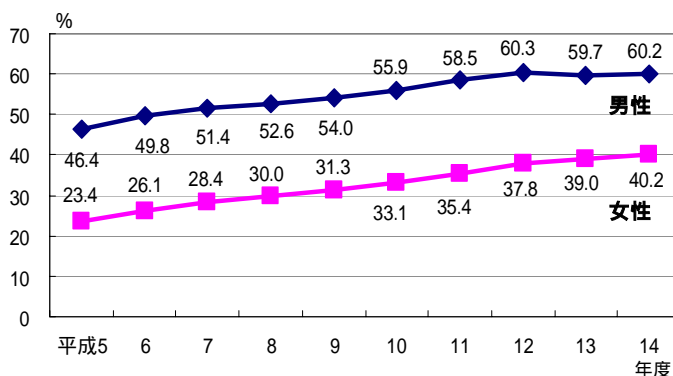
#### 子育てに関する課題

気軽に相談できる人が身近にいない  
大学進学や就職、夫の転勤などで、  
実家から離れた地域で子育てをして  
いる母親が多くなっています。

子育てと仕事の両立  
妻がパートや正社員として働いてい  
る世帯の割合は4割となっており<sup>1</sup>、  
夫婦にとって、子育てと仕事の両立  
が課題となっています。

子どもが直面する深刻な問題  
育児放棄や虐待など、深刻な状況に直面する子どもが増えています。

大学・大学院への進学率  
(文部科学省「学校基本調査」)



#### こうした課題に対して、NPOは様々な取り組みを行っています

母親と子どもが気軽に集まり、子育てに関する悩みをわかちあったり、お互いに助け合ったりする機会を提供しています

子どもの一時預かり等の柔軟な保育サービスを行っています

児童虐待に関する電話相談等の支援を行っています

不登校児のためにフリースクール等を実施しています

#### 事例を1つ取り上げてみます

子育て中の親子なら、誰でも利用できる「こねっと広場」。がんばるママ同士の助け合いの輪を広げよう！  
～NPO 法人 子育てネットワークえひめ(こねっと)～ (愛媛県松山市)

こねっとは、育児サークルで知り合った主婦の仲間たちが始めた子育て支援ボランティア活動です。ボランティア活動を続けるために、NPO 法人となり、中心市街地近くの商店街の一角に場所を借りています。ここに、子育て中の親子が集まってきて、育児の悩みや不安等を話し合ったり、子育て情報を交換しあったりしています。



<sup>1</sup> 夫がサラリーマンの世帯の数字です(2001年総務省「労働力調査特別調査」より)。

## このNPOはどのようにして、地域にかけがえのない存在になってきたのでしょうか？

### 課題の発見



夫の転勤で松山に来て、子育てに孤軍奮闘。まわりを見渡してみると、自分と同じ境遇のお母さん達が多いことに気がついた。身近に相談できる人がいない母親の力になれないだろうか？母親同士が助け合って子育てをしたい！

### “NPOらしい”方法での取り組み



誰もが気軽に利用できる子育て支援の拠点「こねっと広場」をつくった。1回の利用料金は300円と低価格。商店街の空き店舗を活用。県内の育児サークルのネットワーク化など、育児を始めた母親同士の助け合いの輪を広げている。

### 問題の緩和や課題の解決 + その他の成果



保育制度を利用していない母親達にとって、育児のノウハウや子どもの発育状況等に関する情報交換の場となり、育児不安が解消されている。活動拠点のある商店街に、若い母親や子どもが訪れるようになり、賑わいがでてきた。

### 新しい課題の発見 ( ^ )



「子育てが一段落したら、もう一度仕事をしてみたい」、という母親達の声にこたえていきたい。NPOのスタッフが持っているホームページ作成のスキルを指導したら、企業からの仕事を受けるのではないだろうか？



## 他の主体との協力

### NPOセンター

商店街の空き店舗を活用できる補助事業を紹介します。

地域の商店街に入居してはいかが？ この商店街は、空き店舗が目立ち、店主が高齢化しているところですが、NPOにきてもらうことで、なんとか活性化の糸口がつかめるかもしれない。

### 県中小企業団体中央会

### 商店街

子どもや若い母親が商店街に来るのは、大歓迎です。こねっとの協力で、商店街のホームページができました。

こねっとの会報誌は、年4回無料発行で、県内全市町村役場と保健所に1万部も配布されています。県内の核家族世帯のうちで6歳未満の子どもがいる世帯の約2割が、会報誌「こねっと通信」を目にする機会があることになります。

## (1) 暮らしの営み

# イ. 住み慣れたところで暮らし続けたい

### 高齢者介護に関する課題

頼れる人が身近にいない

核家族化や隣近所との付き合いの希薄化により、家庭や地域で高齢者を介護することが難しくなってきました。高齢者にとっては、生活や介護に関して、頼れる人が身近にいないという状況が増えています。

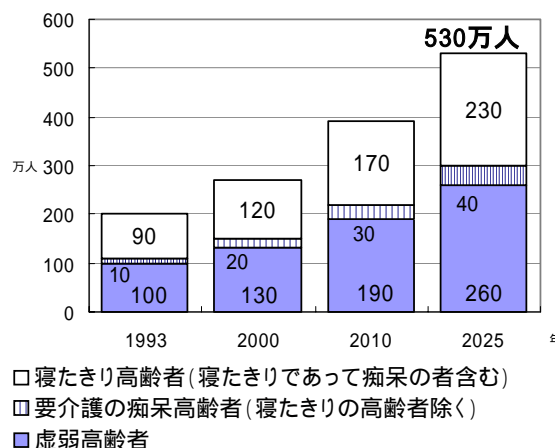
要介護高齢者が増えている

寝たきりや痴呆、体の弱い高齢者の数は、今後急速に増えることが予想されています。

住み慣れた地域で暮らし続けたい

身近に頼れる人がいないなかで要介護状態になると、住み慣れた地域で暮らし続けることは難しくなってしまいます。

要介護者・虚弱高齢者の推移(厚生労働省推計)



### こうした課題に対して、NPOは様々な取り組みを行っています

一人暮らしの高齢者宅を訪問し、安否の確認や食事の配達をしたり、話し相手になったりしています

要介護の高齢者宅で介護や家事のお手伝いをするほか、高齢者を一時お預かりしてお世話しています

体の弱い高齢者が通院や買物で外出する時に、付き添って移動のお世話をしています

### 事例を1つ取り上げてみます

住み慣れた自宅・地域で暮らし続けたい高齢者を支援します。障害児(者)や乳幼児と一緒に地域で生きていこう! ~NPO法人 デイサービスこのゆびとーまれ~(富山県富山市)

「このゆびとーまれ」は、病院に勤務していた3人の看護師が、「家に帰りたい、自宅の畳の上で死にたい」と訴える高齢者を目の当たりにし、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにと、家庭的な雰囲気のある小規模施設の中で高齢者や障害児、乳幼児の一時預かりサービスを実施している団体です。





このNPOはどのようにして、地域にかけがえのない存在になってきたのでしょうか？

課題の発見



「自分の家に帰りたい」と願いながら、自宅に帰れないまま、遠くの病院で亡くなっている高齢者が多い。  
 高齢者ばかりの施設は不自然だ。高齢者と子どもと一緒に生活することは、お互いにとってプラスになるのではないだろうか？  
 なんとかしたい！

“NPOらしい”方法での取り組み



通常は別々に作られている、要介護高齢者、障害児、乳幼児の預かり施設を一体化した小規模多機能施設を自費で開設した。  
 利用者の立場に立った柔軟なサービスの提供を目指した。

問題の緩和や課題の解決  
 +  
 その他の成果



これまで遠くの施設に入らなければならなかった高齢者や障害のある子どもが、住み慣れた地域で生活し続けることが可能になった。  
 高齢者と子どもと一緒に生活することで、互いをいたわる気持ちが生まれた。

新しい課題の発見  
 ( ^ )



施設に来ている障害児が元気に成長している。でも、この子たちは、大人になったら、自立して生活できるのだろうか？  
 施設のなかで、高齢者の介護技術を身につければ、自立できるのではないだろうか？



他の主体との協力

富山県

これまでの制度の枠を超えて、柔軟に補助金・介護報酬を支給して、支援しましょう。

地域の誇りにできるすばらしい活動だ。スタッフとしてお手伝いさせてください。

地域住民

直接活動に参加できないが、代わりに、寄付をさせてください。

地域の老人会

自分達もいずれお世話になる。施設で使う物品を寄付させてください。

取り組みを自分達の自治体・地域でも参考にしたい。  
 (「このゆびとーまれ」のセミナーには、ほとんどの都道府県の関係者が参加。)

他の自治体・地域

「このゆびとーまれ」の先駆的な取り組み(小規模多機能施設)が、厚生労働省に認められ、2004年4月から全国で実施可能になりました。



## (1) 暮らしの営み

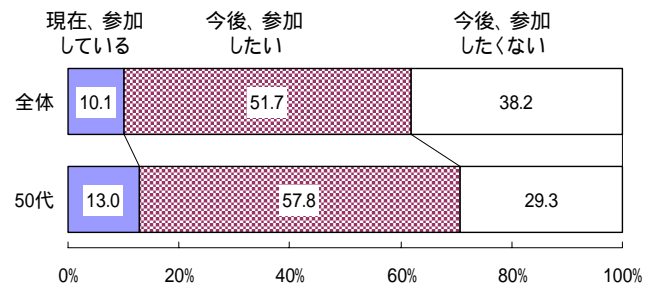
# ウ．定年後も生きがいをもって暮らしていきたい

### 定年退職者に関する状況

**定年退職者数の増加**  
昭和 22 年～24 年生まれの「団塊の世代」は約 700 万人<sup>2</sup>で、全人口の 5.4% を占めています。2004 年には、団塊の世代全員が 55 歳を迎え、定年退職の時期にさしかかります。

**生きがいのある豊かな生活を**  
定年退職者の多くは、地域の人々との接点が少ない状態のまま、地域に戻ってきます。自分の趣味を生かしたり、地域に役立つ活動をしたりといった、生きがいを見つけて生活することが、いつまでも健康で豊かな老後を過ごすためにとても重要です。

NPO、ボランティア、地域の活動への参加  
(内閣府「平成 15 年度国民生活選考度調査」)



### こうした状況において、NPOは様々な取り組みを行っています

NPOが、退職者の生きがい探しを支援しています

- ・ 仲間と一緒に趣味活動を行う機会や、出会いの場の提供を行っています
- ・ IT等の新しい就業スキルの習得機会を提供したり、これまでの経験を活かした就業の支援をしています

NPO活動への参加が退職者の生きがいになっています

- ・ 子どもや現役世代を支援するなどのボランティア活動に参加する機会を提供しています

### 事例を1つ取り上げてみます

「行くところがある・会う人がいる・することがある」豊かな老後は、自分達の手でつくりよう！  
～ NPO 法人 シニアのための市民ネットワーク仙台(シニアネット仙台)～ (宮城県仙台市)

「シニアネット仙台」は、豊かな人生経験をもつシニア世代にふさわしい活動の場を創造し、活力に満ちた高齢社会をつくろうと活動しています。シニア世代の多様な関心を生かすために、3人集まれば活動グループとして認めることにした結果、現在では活動拠点『サロンわいわい一番町』の運営、コンピューターなど各種講座・教室、メーリングリスト運営、観光ボランティアなど、20近いグループが活動しています。



<sup>2</sup> 国立社会保障・人口問題研究所「2004年版人口統計資料集」によると、2002年に団塊の世代は53～55歳であり、その人口合計は6,859千人です。総人口は127,435千人です。

## このNPOはどのようにして、地域にかけがえのない存在になってきたのでしょうか？

### 課題の発見

地元の新聞紙が、高齢者を「弱者」として捉える視点に疑問を投げかけた記事「夕陽は沈まない - 豊齢社会の構築」を連載。同時期に、仙台で、豊かな高齢社会づくりのための国際シンポジウムが開催され、市民の間に「高齢者の生きがいづくりと生活支援に取り組みたい！」との思いが高まった。

### “NPOらしい”方法での取り組み

約130人が発起人となってシニアネット仙台が発足。福祉部、情報企画部、事業部など、あらかじめ設定した6つの部への参加を呼び掛けたが「入りたい部がない」との声が出た。多様なシニアの関心を受け止めるため、1年後に組織を改め「3人集まれば」活動グループとして認める方針を決定。さらに、ボランティアによる緩やかで使いやすい運営をモットーに、「サロンわいわい一番町」の運営に乗り出し、シニア世代の交流と活動の場づくりを目指した。

### 問題の緩和や課題の解決 + その他の成果

シニアに、人との出会い、活動の機会、活動の拠点を提供し、生きがいづくりのきっかけを提供している。当初行っていた痴呆症のシニアの介護、高齢世帯への配食サービスは、それぞれ別のNPOとして独立した。シニアネット仙台が新しいNPOを生み、育てた。

### 新しい課題の発見 ( ^ )

学生ボランティアの受け入れなどを通じてシニア世代と若い世代の交流を広げ、より一層生きがい活動を充実させたい。地元商店街や大学等と連携して、シニアが豊かに過ごせるまちづくりをしていきたい。

## 他の主体との協力

### 宮城県

NPOの活動を支援するための「みやぎNPOプラザ」の創設に協力して欲しい。

七夕まつりやバザーを一緒に開いて、まちづくりを盛り上げましょう。

### 地元商店街

### 活動拠点が入居するビルのオーナー

NPOは資金繰りが大変ですね。素敵な使い方をしてもらっていますから、家賃はお安くしておきますよ。

シニアネット仙台の活動は、高齢者の生活支援サポート、病院インフォメーションボランティア、観光ボランティアガイド、パソコン・朗読・囲碁・カラオケ・英会話・俳句などの講座・教室、メーリングリスト運営、麻雀グループ、パソコンを使ったチラシ・ミニコミ誌作成など、シニアのニーズに基づいて多彩なものとなっています。

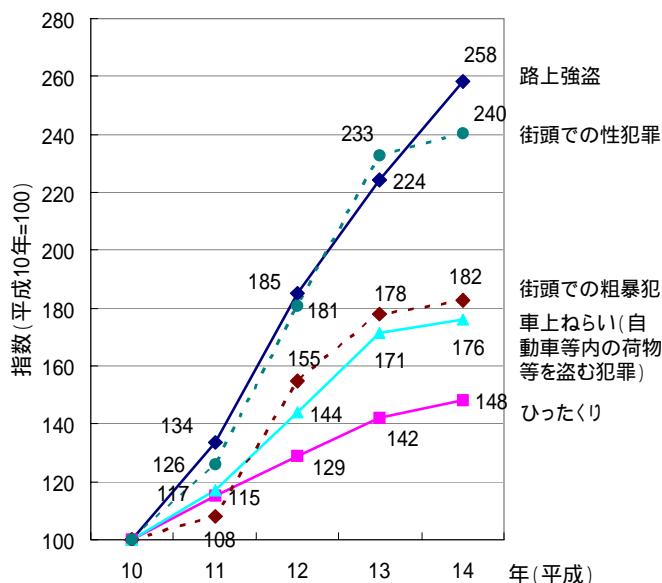
## ア. 安全で住みやすいまちにしたい

### 防犯に関する課題

犯罪発生数の増加、治安の悪化  
私達の日常生活の場での犯罪が急激に増加しています。

子どもや高齢者が被害者に被害者の多くが、子どもや高齢者といった社会的弱者であることも見過ごせません。

主な街頭犯罪の件数の推移(平成15年版警察白書)



### こうした課題に対して、NPOは様々な取り組みを行っています

警察や商店街などと連携しながら、夜間に地域の安全パトロールを行っています  
「街灯がない」「死角が多い」など、地域内の危険な場所・道路を調査し、そうした情報を「安全マップ」にまとめる活動をしています  
ガード下や住宅・施設の壁などに書かれた落書きを消す活動をしています

### 事例を1つ取り上げてみます

地域の皆さんとともに、防犯活動を行います。住民に地域への愛着をもってもらうことが、防犯対策の基本です。～NPO法人 日本ガーディアン・エンジェルス～(東京都港区)

日本ガーディアン・エンジェルスは、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件をきっかけに立ち上がった団体です。犯罪の予防活動の重要性について地域住民の理解を得ながら、地域の様々な団体と連携し、安全パトロールや安全診断、地域の安全マップ作り等の活動を展開しています。



## このNPOはどのようにして、地域にかけがえのない存在になってきたのでしょうか？

### 課題の発見

都市の住民の間で、防犯への関心が薄いことを実感した。  
このままでは、まちに犯罪が増えていくのではないだろうか？  
なんとかしたい！

### “NPOらしい”方法 での取り組み

米国ガーディアン・エンジェルズ(G.A)の元ニューヨーク市本部長が東京支部を設立。その専門性を活かして、住民とともに、防犯パトロール、安全診断、安全マップづくりを実施している。  
住民の活動だけでは防犯に立ち向かえないので、警察や役所と協力して活動を実施している。

### 問題の緩和や 課題の解決 + その他の成果

活動当初、地域住民は日本G.Aの防犯活動に懐疑的であったが、まちの治安が改善された実例を目の当たりにして、多くの地域から活動の誘致が起こった。  
住民の間にも、「自分自身が動けば地域が変わる！」という実感が生まれた。

### 新しい課題の発見 ( へ )

より多くの住民に、まちの防犯の重要性を分かってもらい、活動に加わってもらいたい。そして、住民主体で防犯活動をしていってもらいたい。  
そのために、誰でもできる防犯活動の方法をシステム化し、住民の間に広め根付かせたい。

## 他の主体との協力

### 地元警察

犯罪多発地域や既存の防犯組織などの情報を提供しましょう。

駅・商店街周辺の夜間パトロール、青少年への声掛けを日本G.Aに委託したい。

### 自治体

### 町内会、自治会、 商店街など

日本G.Aの活動を、自分たちの活動の参考にしよう。

日本ガーディアン・エンジェルズの活動は、札幌、仙台、東京、横浜、京都、大阪、神戸、広島、福岡などの全国21都市に拡大しています。

## イ．環境にやさしいまちにしたい

### 環境に関する課題

#### 豊かな自然環境の喪失

身近な緑が少なくなったり、小川からホタルが消えたりするなど、かけがえない自然環境が失われてきています。

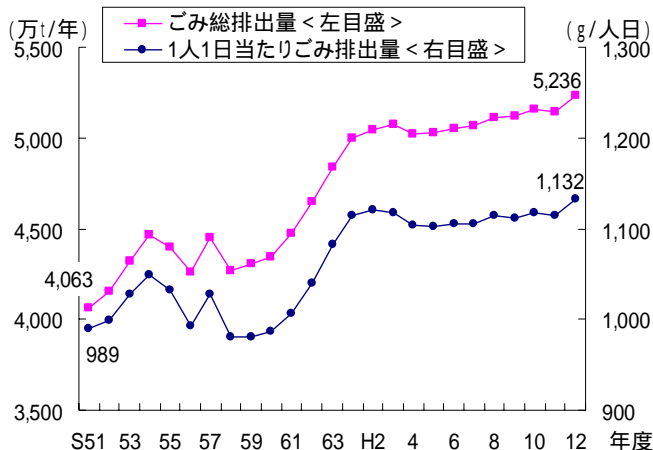
#### 大気・水・土壌などの環境汚染

大気や水（川や海）、工場跡地の土壌などの汚染が問題になっています。

#### ごみの排出量の増加

ごみの排出量が増加しており、ごみ処理は各地域の大きな課題となっています。

ごみ総排出量の推移（環境省「日本の廃棄物処理」）



### こうした課題に対して、NPOは様々な取り組みを行っています

ホタルが生息する水辺環境を蘇らせ、みんなでホタルの光を鑑賞しています  
環境にやさしい洗剤などの商品を開発し、きれいな川や湖を守っています  
地域から出るゴミを回収し、再資源化するリサイクル活動を行っています

### 事例を1つ取り上げてみます

環境は自分たちの手で、自分たちのやり方で守ろう！ 生ゴミを回収して堆肥化し、農作物や菜の花を育てます。～NPO 法人 伊万里はちがめプラン～（佐賀県伊万里市）

「伊万里はちがめプラン」は、地域の飲食店主が中心となってはじめたNPOです。地域の農家や住民の協力を得て、生ゴミから堆肥を生産し、その堆肥を使って農産物をつくるという循環をつくりあげています。堆肥は菜の花の栽培にも使われ、その菜種油の使用後（廃食油）は、環境に優しい自動車燃料として再利用されています。





このNPOはどのようにして、地域にかけがえのない存在になってきたのでしょうか？

課題の発見



伊万里飲料店組合と旅館組合が、自分達が出す生ごみや廃食油を、地域に迷惑をかけないで処理したい、と考えるようになった。生ごみを犬やカラスに荒らされて困っていた店もあった。

“NPOらしい”方法での取り組み



地元の農林高校や大学、商工会議所などと協力し、国や県の補助事業を活用しながら、生ごみの堆肥化施設をつくった。地元の農家の協力を得て、堆肥をつかった農作物作りにも取り組んだ。滋賀県等で行われている「菜の花プロジェクト」（菜の花栽培・菜種油製造・廃食油利用）に感銘を受け、自分達でも始めることにした。

問題の緩和や課題の解決  
+  
その他の成果



市によるごみ処理は、税金を使って焼却するというもの。それとは異なる「堆肥化」という新たな方法でごみ処理が可能になった。活動に感銘を受けた人々が地域で増加し、一般家庭のごみの回収・堆肥化にも取り組めるようになった。農業者の協力によって農産物直売所を開設することができた。

新しい課題の発見  
( ^ )



生ごみ 堆肥 農作物 生ごみ、堆肥 菜種油 廃食油 燃料という2つの循環ができた。この循環に参加してくれる人をもっと増やしたい。地域通貨「ハッチー」を導入したらどうだろう？（ボランティアで回収等に協力してくれた人にハッチーを配布し、堆肥や農作物等の購入に充ててもらおう、など）



他の主体との協力

佐賀県  
商工会連合会

一緒にごみの資源化について研究しませんか。県と国の補助事業もありますよ。

堆肥を使った農作物栽培に協力しましょう。農業者と市民による菜の花プロジェクトをすすめよう！

地元農家

地域住民

回収に協力するから、うちの生ごみも堆肥化して欲しい！農産物直売所で野菜を買います。

生ごみ回収への協力者は、当初の飲食店・ホテルに加えて、小売店、医院、農家、給食センター、保育園、そして一般家庭にまで広がりました。現在、「伊万里はちがめプラン」では1日に約1.6トンの生ごみを処理しています。

## ウ．賑わいのあるまちを取り戻したい

### 過疎地域の抱える課題

過疎地域の人口は減り続ける

過疎の状況にある市町村数は1,169であり、全国の市町村数の約4割を占めています<sup>3</sup>。過疎地域の人口は712万人程度ですが、平成22年には85万人減って627万人になる見込みです<sup>4</sup>。

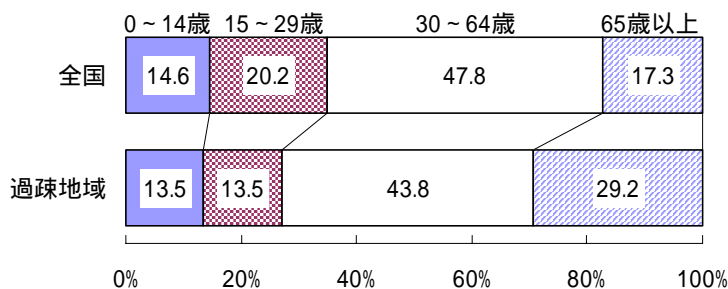
深刻な高齢化

過疎地域では、少子高齢化が大きな問題となっています。

地域の存続の危機

食料品店やバス・鉄道等交通の便がなくなるなど、生活に必要なサービスが不足しています。過疎地域には、地域の存続の危機といったよい状況がみられます。

過疎地域および全国の年齢階層別人口構成  
(平成12年国勢調査)



### こうした課題に対して、NPOは様々な取り組みを行っています

地域の特産品の開発・販売や、観光振興などのまちおこしを行っています

地域住民の足であるバスや鉄道を守って、住民とともに公共交通の運営を行っています

廃校を自然体験施設に活用して運営するなどして、地域資源を眠らせないようにしています

市町村合併後も地域に残したい伝統文化や地域独自の公共サービスの担い手となっています

### 事例を1つ取り上げてみます

地域の活力も、必要なサービスも、自分たちで作りだしていこう。かあさん達が本気になったら、元気な地域が出来た！ ～NPO法人 夢未来くんま～(静岡県天竜市熊地区)

昭和62年、女性達が、味噌等の地元産品を商品化して販売する地域おこしを始めました。地元のかあさん達の商品は大人気となり、平成元年に農林水産大臣賞や天皇杯を受賞するなど、全国的にも評価されるようになりました。かあさん達は、地域おこしで得た収益を熊地区に還元するためにNPO法人「夢未来くんま」を結成し、地域住民のために環境保全や福祉のサービスを提供しています。



<sup>3</sup> 過疎地域自立促進特別措置法で過疎地域とされている市町村数(平成16年4月1日現在、総務省調べ)

<sup>4</sup> 財団法人過疎地域問題調査会「過疎地域における短期的人口動向基礎調査」(平成14年3月)



## このNPOはどのようにして、地域にかけがえのない存在になってきたのでしょうか？

### 課題の発見

宿場町として栄えた熊地区の人口は、昭和の合併後に減少の一途。このままでは、地域は衰退していくばかり。なにかしなければ…。私達には、生活改善グループや婦人会活動で、食を通じて地域文化を継承する活動をしてきた経験がある。味噌等の伝統食を商品化して地域活性化に貢献できるのでは？

### “NPOらしい”方法での取り組み

地元の農産物を加工販売して、他の地域からたくさんの人々に来てもらおう。そのために、活動拠点「くんま村おこし水車の里」（水車の里）を、地域全体の協力を得て整備した。得た収益は、都市と山村の交流事業、元気な高齢者のためのデイサービスや給食サービス等の福祉活動、子どもたちのための体験型環境学習等の活動に使い、地域に還元していくことにした。

### 問題の緩和や課題の解決 + その他の成果

地域住民が、熊地区への郷土愛を深め、自立意識を強めた。地域住民の間に、「一緒に地域のために何かをしていこう」という信頼関係ができた。農村の女性達に雇用機会を提供（自分の財布が持てた！）。

### 新しい課題の発見 ( ^ )

デイサービスを行う中で、元気な高齢者でも、身寄りがいない人はちょっと体調を崩した時にとっても不安になってしまうことがわかった。これまで地域のために頑張ってくれた高齢者が、安心して住める熊地区にしたい。夜間に高齢者宅を見回るサービスをしたり、身寄りのない高齢者が共同で住めるような場所を作ったらどうか？

## 他の主体との協力

### 天竜市農林課

補助事業を活用して、活動拠点をつくってみては？  
夢未来くんまのかあさん達を、相談・助言やイベント時の手伝いなどで、折りに触れて支援します。

地区の共有林を売却して補助事業活用に必要な地元負担金を提供します。  
(協議会の理事達は、精神面での励まし、運転資金の提供、ボランティアでの手伝いなどをして、「水車の里」事業をサポート。)

熊地区活性化推進協議会(全戸加入の住民組織)

熊地区の定住人口は増えていないものの、交流人口が増加し、地域に賑わいが戻ってきました。また、地域の高齢者が「水車の里」に得意の手工芸品を出品するなど、生きがいをもった元気な高齢者が増えています。

## 2 . 地域で活躍するNPOの秘訣

最後に、「ここで紹介されているNPOのようになるためには、どうしたらよいのだろう？」という視点から、地域で活躍するNPOの秘訣をまとめます。

### 子 育 て

NPO 法人子育てネットワークえひめ(こねと) (愛媛県松山市)

#### 自分の経験を活かして、同じ悩みを抱える人を支援

ちょっとだけ先輩が後輩を支えながら、みんなで助け合って元気になっていこうというしくみ。だから、NPOのスタッフ自身も楽しみながら活動し続けている。

#### 収益事業をしっかりと確保

1万部配布する会報誌に企業広告を掲載するなど、自前の資金源を確保。誰にも依存せずに、こねとらしい活動をしていくことができる。

もっと詳しく知りたい <http://www.conet-ehime.or.jp/>

### 高 齢 者 介 護

NPO 法人デイサービスこのゆびとーまれ (富山県富山市)

#### 住民のニーズそのものから対応方法を発想

行政サービスの枠組みにとらわれずに、切実な住民ニーズに応えることに専念して知恵を絞った結果、全国に先駆けた「富山方式<sup>5</sup>」を生み出した。

#### 思いやりの心 + 専門性が必要

活動の原点は、元日赤病院の看護師さんたちの、「高齢の患者の願いをかなえたい」という、人としての思いやり。それに、医療や介護に関する専門的な知識や技術を加えて、地域からも信頼される活動が展開されている。

もっと詳しく知りたい <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Poplar/2412/>

### 定年退職後の生きがい

NPO 法人シニアのための市民ネットワーク仙台 (宮城県仙台市)

#### みんなが集まりやすい活動拠点を確保

交通の便のよい中心市街地に活動拠点「サロンわいわい一番町」をもっていることで、メンバー間の交流や情報交換がしやすくなっている。

#### 参加者の自発性を尊重して、多彩な活動を展開

新しい生きがい活動は、3人以上の会員が集まれば誰でも始めることができる。ニーズがなくなったら、すぐにやめることもできる。この柔軟なやり方で、活動のメニューが多彩で魅力的になっており、誰もが参加しやすい活動となっている。

もっと詳しく知りたい <http://www.sendai-senior.org/>

<sup>5</sup> 赤ちゃんから高齢者まで、障害の有無にかかわらずに、一箇所で一緒にケアする活動方式と、それにあわせた行政の柔軟な補助金の出し方を「富山方式」と呼びます。全国に広まりつつあります。

## 安全 住みやすさ

NPO 法人日本ガーディアン・エンジェルス（東京都港区）

### 活動を、わかりやすくアピール

揃いのユニフォームを着て、夜のまちをパトロールしたり、落書きを消すなど、住民に活動を理解してもらう工夫をしている。

### お互いに補い合える組織との連携を積極的に

警察との連携によって、地域の防犯に必要な情報を入手することができ、効果的な活動を行うことができています。地域住民の信頼も得られた。

もっと詳しく知りたい <http://www.guardianangels.or.jp/menu.html>

## 自然環境

NPO 法人伊万里はちがめプラン（佐賀県伊万里市）

### 地域の外にあるアイデアや先駆的な取り組みを、上手に地域にもってくる

国連大学の専門家の「地域から出るごみを資源として循環させれば地域は自立できる」という考えに刺激を受けた。また、菜の花を育て、その菜種油をリサイクルするという「菜の花プロジェクト」は滋賀県愛東町の活動から学んだものだった。

### 地域のいろいろな団体・人々をつないでいく

堆肥化技術は地元の高校や大学に、農作物の栽培は農家に、一般家庭からのごみ回収は市民ボランティアに、それぞれ協力してもらっている。NPO が中心となって、地域の多様な主体が協力すると、新しい問題解決方法が実現する。

もっと詳しく知りたい <http://www6.ocn.ne.jp/hatigame/>

## まちの賑わい

NPO 法人夢未来くんま（静岡県天竜市熊地区）

### 地域の資源に、とことん、こだわりぬく

まちの賑わいの源は、かあさん達が製造・販売する味噌や手打ち蕎麦と、農産物加工品。まちおこしの種は、人も素材も、地域のなかにこそ、ある。

### 左手にビジネス、右手にボランティア

収益源を確保することによって、スタッフを雇用し、地域のためのサービスを持続的に提供できるようになった。地域のための活動にビジネスの視点を取り入れた。

### メンバーが生き生きと、責任感をもって活動

リーダーが全てをやってしまうのではなく、メンバーも責任を分担して、自分で考えながら活動してきた。ほどよいリーダーシップが長持ちの秘訣。

もっと詳しく知りたい <http://www8.ocn.ne.jp/kunma/>

# 内閣府国民生活局

このパンフレットに関するお問い合わせ先

---

内閣府国民生活局市民活動促進課

TEL 03-3581-9965

内閣府ではホームページによりNPO法人やボランティアに関する情報を提供しています。どうぞご利用ください。

URL <http://www.npo-homepage.go.jp/>